話すこと　指導のポイント

（その２）

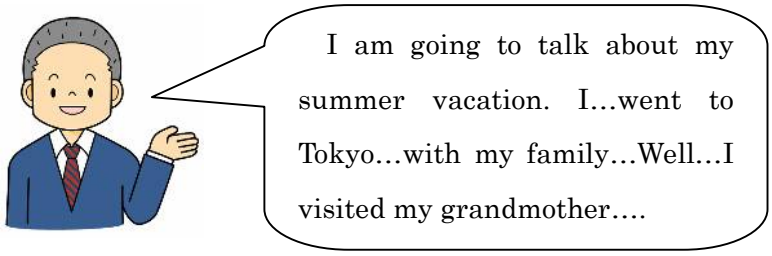
～　スピーチ活動の指導について②　～

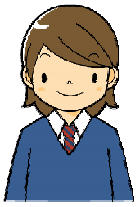
Ｇ中学校の実践例

帯活動にスピーチ活動を位置付けた実践

Ｇ中学校では、年間２～３単元において、帯活動として毎時間「ミニスピーチ活動」を位置付けています。その単元では、総合的な言語活動としてのスピーチ活動を単元末に位置付け、帯活動でのミニスピーチ活動と関連付けて計画的に指導しています。

ミニスピーチ活動の概要は以下のとおりです。





活動名	1 min speech
対象学年	２年～３年
形態	ペア
時間	５分間程度　帯活動として
目的	・即興で５０語程度のスピーチを行うことができる。（＊注１） ※「正確さ」よりも「**流暢さ**」に重きを置く。
スピーチのテーマ	・主に自分や身の周りのこと ・１週間（４回）毎に変更する（＊注２）
方法	(1) ペアでお互いに原稿なしで１分間スピーチする。 (2) 相互評価、自己評価、疑問点等を自己評価用紙に記載する。 自己評価用紙は、単元でＡ４　１枚
その他	・自己評価用紙は、教師が毎回集め、コメントしたり、生徒からの質問に答えたりする。共通する課題があった場合は、次回の開始前に指導する。 ◎評価は単元末にパフォーマンステストにより行う。

（＊注１）Ｇ中学校の「話すこと」の CAN-DO リストには、スピーチに関する項目も位置付けられています。１年では「作成した原稿をもとに」、２年では「メモをもとに」、３年では「即興で」を目安とし、正確さを伴って話すことができることを目指しています。

（＊注２）1 min speech のテーマは、４回で１セットとし、同じものについてスピーチさせています。回を追う毎に、質・量ともに充実し、生徒自身も成長を実感できるよう意図しています。

非常に参考になる実践例です。どの生徒も生き生きと英語を使っていました。全てが正確な英語ではありませんでしたが、間違いを臆することなく英語を話す態度は育っています。

本実践の優れている点をまとめてみました。

１　帯活動としてのスピーチ活動の目的を明確にしている。

話す活動では、「正確さ」と「流暢さ」が求められます。単元末の総合的な言語活動としてのスピーチ活動は、原稿を準備させ練習させる等「正確さ」に重きを置いています。帯活動においては、「正確さ」よりも**「流暢さ」を優先した**ミニスピーチ活動を位置付け、即興で話す力の育成をねらうとともに、単元末の総合的なスピーチ活動と関連付けています。

２　個別への支援が継続して行われている。

相互評価、自己評価で毎回自己のスピーチを振り返らせています。評価表に教師が毎回アドバイスを書き込むことで、生徒自身が次回から、どう表現するの、何を話すのか、という点について自分なりに工夫するように仕組まれています。

３　スピーチに自信をもてるような配慮がされている。

ペア活動にしたこと、「流暢さ」に重きを置いたことで、生徒が間違いを恐れずに話す場を作ることができています。

また、同じテーマを複数回話す機会を与えることで、自己の成長を実感できるよう工夫もされています。

各校でも、工夫してスピーチ活動に取り組んでほしいと思います。